

今年度の取組結果概要

平成25年2月21日(木)

※掲載の写真はプライバシー保護の為、削除しております。

1) 本プロジェクトの目指すところ

目的

水害から一人の犠牲者も出さないという趣旨のもと、住民、防災行政機関、警察・消防、報道機関などが連携して減災に向けた取組を継続的に推進するための体制構築を目的として設立

～ 板橋区舟渡地区をモデルケースに ～



最終目標

- ・次世代層の水害意識・知識レベルの向上
- ・住民の水害意識向上
- ・住民と企業の連携向上
- ・防災リーダーの育成(防災情報の取り方、見方などを教える)
- ・住民と関係機関の顔の見える関係の構築
- ・水害時に近くて安全な避難場所を追加(企業などとの提携)
- ・災害時要援護者の避難行動支援方法の確立

実施体制

アドバイザー会議

取り組み全体の支援や助言体制を構築する。

- ・防災情報等の専門家
- ・都市計画専門家
- ・災害報道等の専門家
- ・防災気象情報等の専門家

側面支援

地域防災力向上会議

水防災に関する関係機関から構成し、取組内容や社会実験テーマに関して、具体的な対策を検討する。また、各機関の役割推進を支援する。

- ・住民代表(舟渡町会長、副会長)
- ・河川管理者(荒川下流河川事務所、第四建設事務所)
- ・板橋区(防災危機室、土木部計画課、教育委員会)
- ・消防署(志村消防署)
- ・警察署(志村警察署)
- ・気象台(東京管区気象台)
- ・地域放送社(株ジェイコムイースト板橋局)

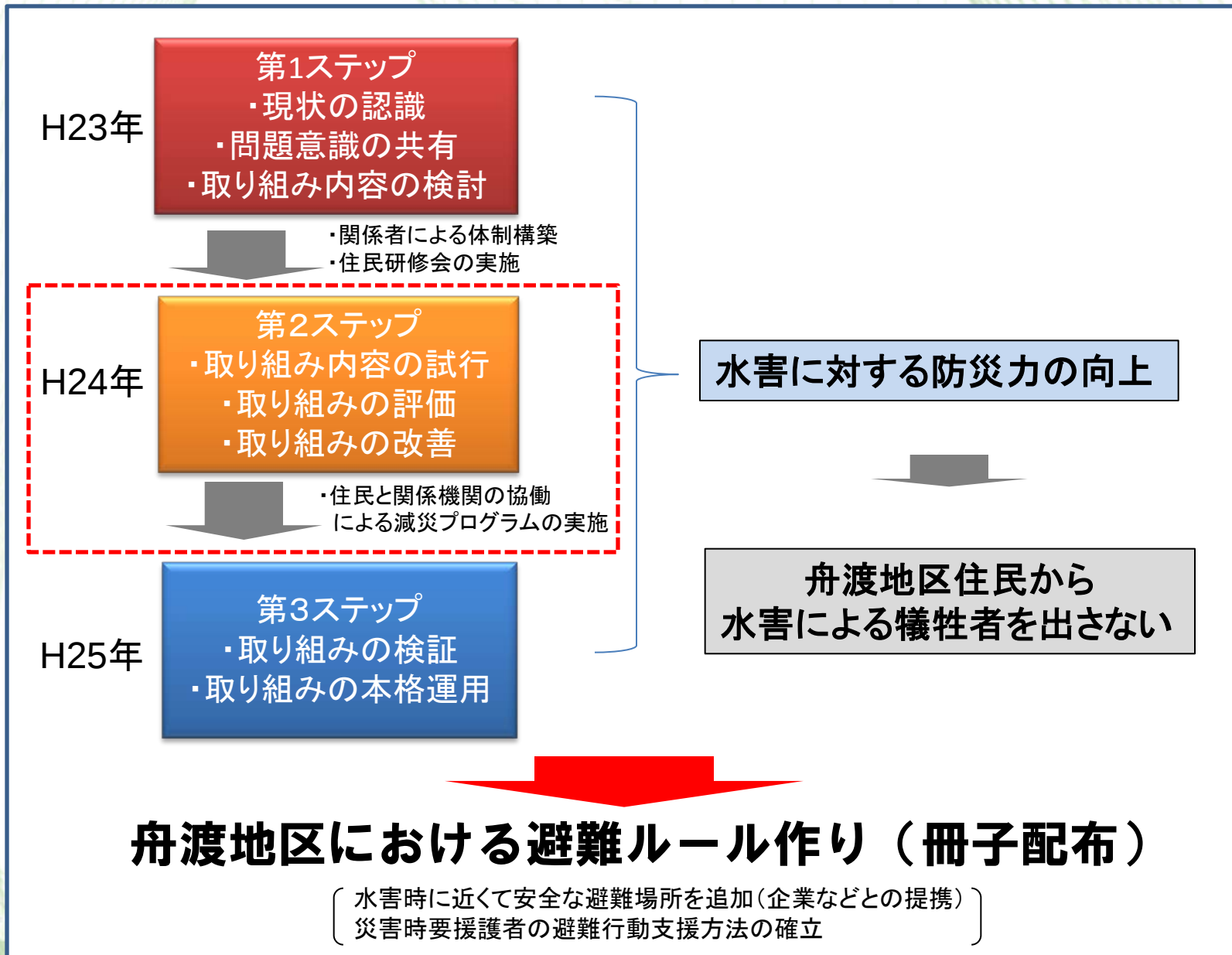
出された意見等をもとに
取り組みを推進

舟渡町会等と連携した取組の推進

舟渡町会における水災害に関する課題の解決策を地域住民と考えていく。

- ・災害時要援護者の避難対策
- ・子どもたちへの防災教育
- ・水害時に有効な避難場所の検討 など

プロジェクトの流れと最終成果目標



1) 今年度の取組概要

前年度の意見をもとにした取組(案)

- 【取組1】関係機関、有識者、住民による定期会議の継続開催
- 【取組2】住民勉強会の継続開催
- 【取組3】地域内事業者との連携推進
- 【取組4】学校現場と連携した防災啓発
- 【取組5】住民主体による具体的な避難ルール(案)の作成
- 【取組6】地域との協働による要援護者支援(案)の作成



今年度の具体的取組

■水害に関する講演会の実施

【取組1、2】

■住民ワークショップの実施

【取組3、4、5、6】

2) 今年度の取組スケジュール

第3回地域防災力向上会議(H24年7月19日)

◆本会議で進めるべき内容について

- ・H23年度の実施結果の評価
- ・今年度の住民研修会内容について

第3回アドバイザリー会議(8月16日)

第1回水防災講演会(8月18日)

第1回住民ワークショップ(12月8日)

第2回水防災講演会(12月15日)

第2回住民ワークショップ(1月19日)

第3回住民ワークショップ(2月2日)

第4回地域防災力向上会議(H25年2月21日)

◆次年度以降進めるべき内容について

- ・H24年度の実施結果の評価
- ・次年度の取り組みについて

第4回アドバイザリー会議(H25年2月28日)

次年度へ

3) 第3回地域防災力向上会議 概要(1)

■日時:平成24年7月19日(木)16:00~17:30

■概要:・前年度の取組み概要
・今年度の取組計画

■参加者:舟渡町会(会長・副会長)

板橋区危機管理室、板橋区土木部計画課、
東京都第四建設事務所、東京管区气象台、
志村警察署、志村消防署、(株)ジェイコム
イースト板橋局



主な意見

1. プロジェクトの進め方に関する意見

- ・地域防災力向上会議としては、地域の要請により**住民の基礎知識(河川はん濫・内水・外水等)習得のための取組み(出前講座等)**に積極的に協力したい。
- ・住民ワークショップでは話題提供として**治水施設(岩淵水門等)の役割**を広報してはどうか。
- ・地域放送社として、**住民ワークショップや講演会等をケーブルテレビで放送**することは可能である。地域の取組みを番組等で伝えて行きたい。
- ・荒川下流河川事務所では、「**荒川氾濫**」の**DVDを作成**しているのでワークショップ等で使用してほしい。
- ・広報等で**防災に関する取組み**を住民に知ってもらうことが重要である。
- ・地域防災力向上会議に、**JRや自衛隊にも参加**を呼び掛けてはどうか。

3) 第3回地域防災力向上会議 概要(2)

主な意見

2. 防災情報に関する意見

- ・**防災情報の共有化**をどの様にするか、全ての人にどの様に情報提供していくかが課題である。
- ・板橋区では、**希望者に防災情報メールを提供**している。また、**防災無線を使用し避難勧告等**を行っている。
- ・荒川下流河川事務所では、**防災の取組みとして、ARAメール、ツイッター等で情報**を提供している。
- ・避難等を考えた場合、**従来型の防災無線も有効**だと感じている。なお板橋区では、**防災無線のモーターサイレンへの改修を随時**行っている。
- ・防災情報を発信する立場から、このような会議で**利用者の意見を聞いて参考**にしたい。

3. 避難に関する意見

- ・荒川氾濫時には、**避難場所となる志村小学校だけでは収容できないので事業所の協力が必要**である。
- ・**浸水により電力やライフラインが途絶する可能性が高い**。夜間などの避難は暗闇の中の避難となることが考えられる。

4) 第3回アドバイザー会議 概要(1)

■日時:平成24年8月16日(木)15:00~17:00

- 概要:
- ・前年度の取組概要
 - ・今年度の取組計画
 - ・水害シナリオ(案)
 - ・荒川はん濫シミュレーション結果



【第1回アドバイザー会議委員 出席者一覧】

氏 名	役 職	機 関 名
田中 敦	教授	東京大学 情報学環 総合防災情報研究センター
加藤 孝明	准教授	東京大学 生産技術研究所 都市基盤安全工学国際研究センター
谷原 和憲	部長	日本テレビ放送網株式会社 報道局 マルチニュース制作部
海老原 智	技術部長	東京管区気象台

【事務局】

荒川下流河川事務所、環境防災総合政策研究機構(CeMI)

4) 第3回アドバイザー会議 概要 (2)

【主な意見】

1. プロジェクトの進め方に関する意見

- 水害のシナリオの降雨パターンとしては、平成11年と平成19年の過去の雨の降り方を調べてはどうか。
- 舟渡地区の避難場所が遠い。
- 指定避難場所まで、2kmではあるが晴れている場合は特に常識の範囲内である。避難する人が一斉に動いた場合を考える必要がある。
- 舟渡地区では、水害シミュレーションをみると、はん濫まで1時間余裕があると思ってしまうのではないか。決壊場所にもよるが、下流で決壊したらもっと早い浸水となる。
- 舟渡地区だけでなく、河川沿いの住民には同じ行動をとってもらわなくてはいけないので、早めに避難させる水害シナリオでないといけない。
- 避難勧告や避難指示は、区に単独で出すわけではなく地域に出す必要がある。

4) 第3回アドバイザー会議 概要 (3)

【主な意見】

2. 住民ワークショップについての意見(1)

- 事業所は1名～4名の参加では意味がない。10社くらいは参加してもらおう。また、昔から地域にある会社でないと参加は難しいのではないかと。事業所より、マンションの管理者に声をかけた方が現実的ではないか。
- 湛水が3週間というとき、マンションへの避難はあり得ない。ただし緊急時の避難場所としては使えるのではないかと。
- 垂直避難は湛水が長引けば無理である。まず、トイレの問題がでてくる。
- 水害シナリオでは浸水が3週間となっているが、シミュレーションをみると90時間で外に出られる可能性がある。
- ワークショップの1回目と2回目のソリューションを共有しておいた方がよい。
- このシミュレーションの地図を見ると浮間舟渡駅が高そうだが、電車がストップすれば、一時避難場所としてはあり得るのではないかと。

4) 第3回アドバイザー会議 概要(4)

【主な意見】

2. 住民ワークショップについての意見(2)

- 夜間人口の問題だが東京湾沿岸の事業所は3交代で勤務しているところが多く、24時間の稼働となっている可能性が高い。24時間稼働でない地域だと夜間人口が減る為、**夜間の水害対策も考える必要がある。**

3. その他の意見

- **ハザードマップの区分**であるが、0～1m床上浸水、2m～5m2階・3階建てまで浸水となっているが、この**表記**をかえてほしい。1.5m床上浸水とした方が、危機感がでる。被害と直接結びつく言い方でないと意味がないので、**河川管理者には、検討してほしい。**

5) 水防災講演会 (1)

第1回水防災講演会

●水害および地域防災に関する講演会

【目 的】 水害や地域防災のあり方に関する基礎知識の習得を目的とした講演会を開催する。

1) 日時

平成24年8月18日(土) 14:00～16:00

2) 参加者(総人数:22名)

- ・舟渡町会員 13名
- ・舟渡地域センター 3名
- ・荒川下流河川事務所 4名
- ・ジェーコム板橋局 2名

3) 内容等

■テーマ 「水害および地域防災について」

■講演1 講師 松尾一郎 様 (NPO法人 環境防災総合政策研究機構 理事)

演題 「近年の水害調査から見たこと

～地域や命を救った自治会・住民の防災行動～」

講演2 講師 山崎 登 様 (NHK 解説主幹)

演題 「情報で水害の被害を減らす」

参加費無料

水防災講演会
～地域防災を学ぼう～

この水害防災講演会、地域防災力向上に向けた取組の一環として舟渡地区をモデル地区に町内会から避難所内に設置している避難所では、今年度半ばの講演会を舟渡3丁目の避難所と3基の住民フォーシェッスを予定して1事です。この機会に、地域防災について一層に考えてみませんか。ぜひご参加をお待ちしております。

日時 平成24年8月18日(土) 14:00～16:00
会場 舟渡地域センター3階 洋室A (舟渡3丁目)
※舟渡地区住民60名様(先着)事前申し込み不要です

講師 松尾 一郎 氏 (NPO法人 環境防災総合政策研究機構 理事)
日本災害情報学会 事務局長 次長
名古屋水防危機情報共有推進委員会 コーディネータ
大規模災害時における消防団活動のあり方等に関する検討会委員 (総務省)

講師 山崎 登 氏 (NHK 解説主幹)
日本災害情報学会理事
日本災害情報学会企画委員会委員長

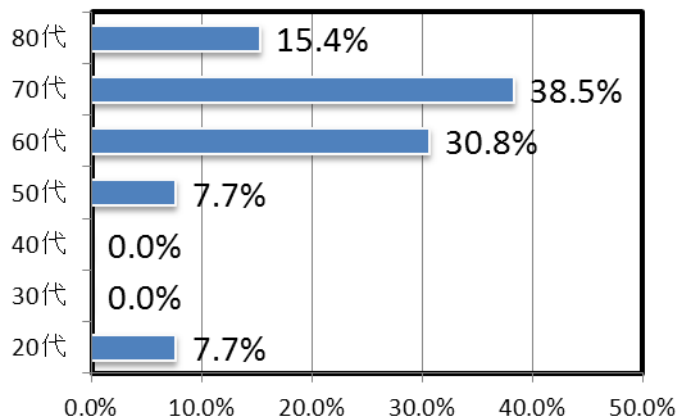
14:00 開会
14:00 第一部
「近年の水害調査から見たこと
～地域や命を救った自治会・住民の防災行動～」講師: 松尾 一郎
14:50 休憩 (10分)
15:00 第二部
「情報で水害の被害を減らす」講師: 山崎 登
15:50 質疑応答 (10分)
16:00 閉会

主催: 国土交通省 荒川下流河川事務所
お問い合わせ: NPO法人環境防災総合政策研究機構
東京都板橋区板橋4-22-0 ヌール館505号
Tel: 03-3359-7971 Fax: 03-3359-7987

写真

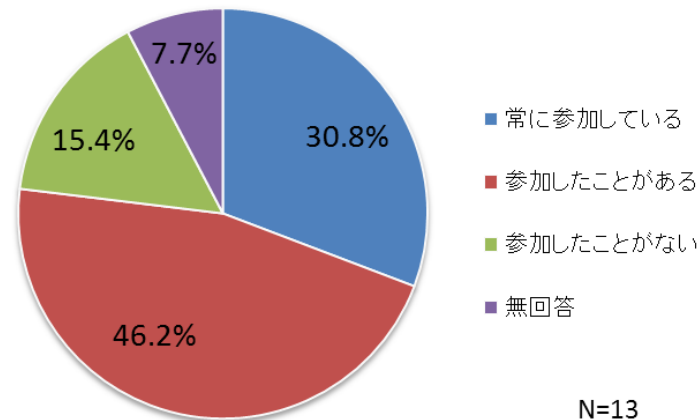
アンケート結果 : 講演会終了後実施

アンケート調査回答者 : 13名 (内訳: 舟渡町会員: 12名、町会員以外: 1名)



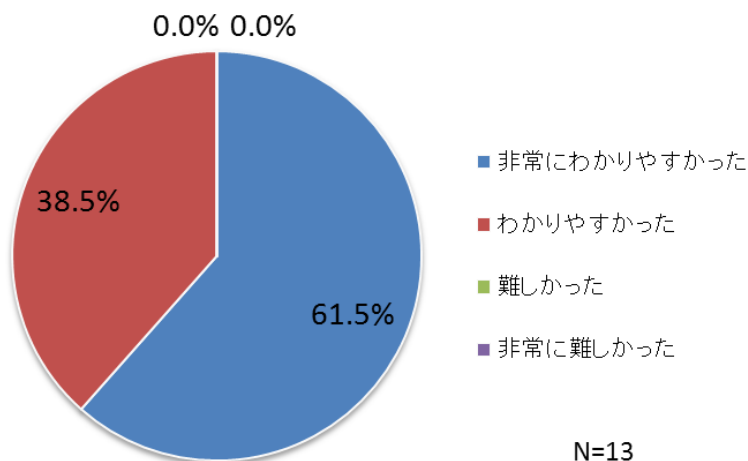
アンケート回答者の年齢構成 N=13

問 : 板橋区などが行っている、防災訓練や研修会等に参加したことがありますか。



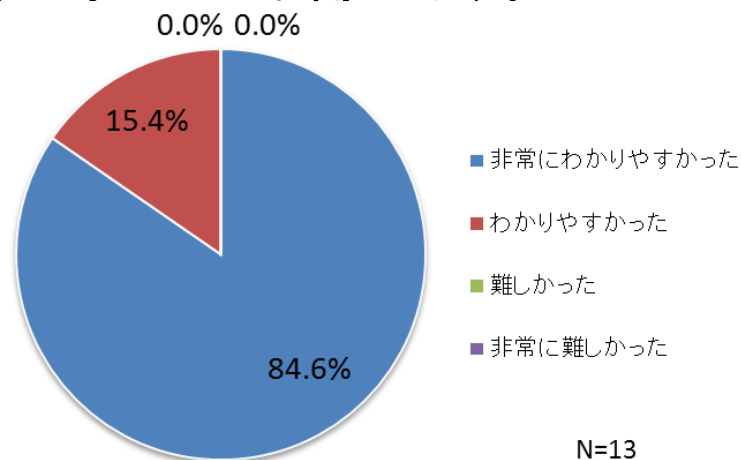
N=13

問 : 講演会の内容について、それぞれ難しい、わかりやすい等についてお聞きします。



N=13

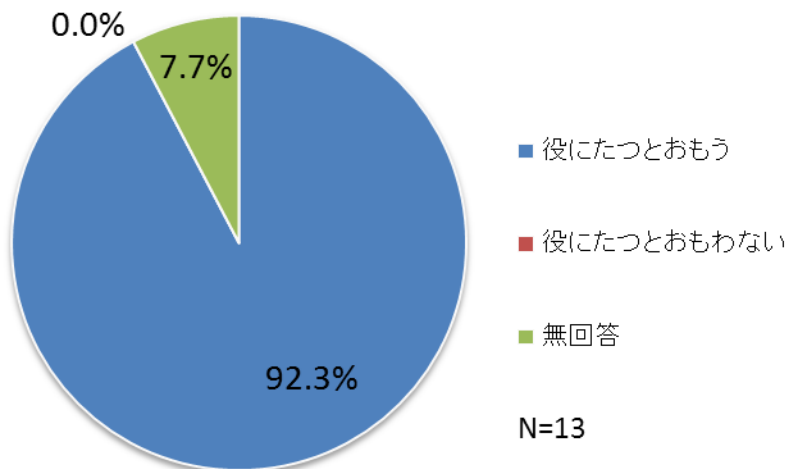
「近年の水害調査から見たこと」 松尾講師



N=13

「情報で水害の被害を減らす」 山崎講師

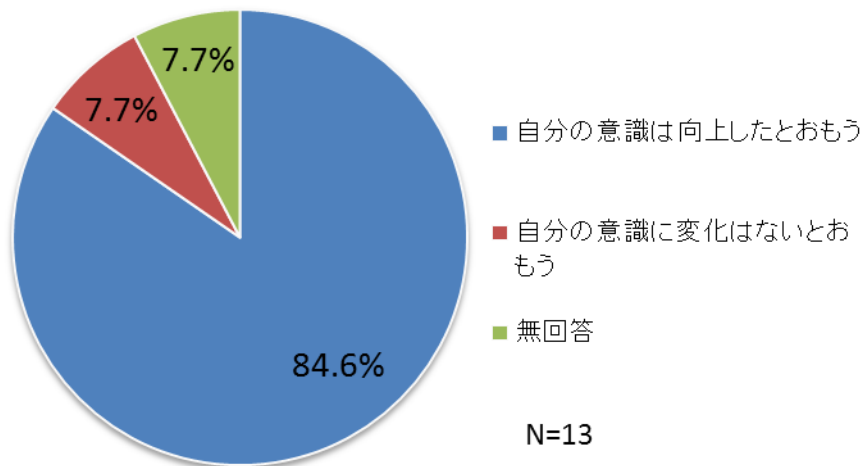
問：本日の講演会が、今後の災害時などに役に立つとおもいますか。



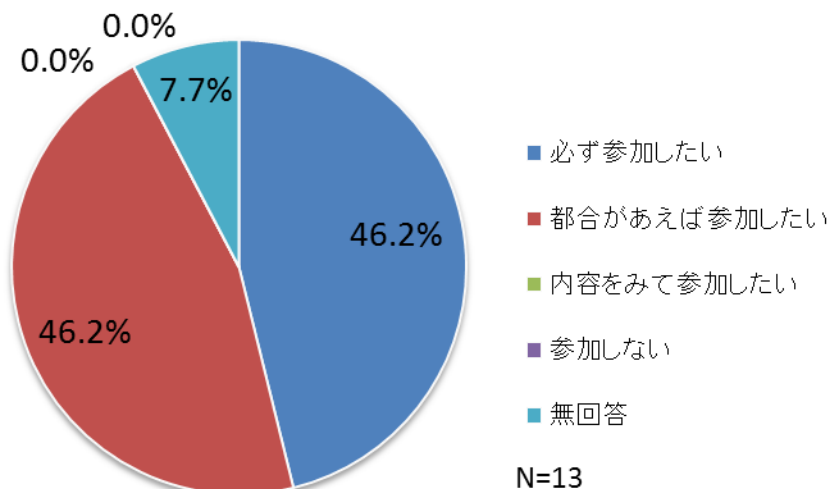
【具体的に】

- 的確な情報収集の大切さ。
- 情報に忠実に行動する事。地域での絆が大事。
- 危機意識の再確認が得られた。
- 日常生活のなかで心構えができていていること。
- 今迄知らなかったことを知ることにより気持ちの安定感がある。
- 減災は防災意識を高める事を自覚する。
- 情報と早めの避難が大事
- 我が家だけでも逃げる(避難する)という意志を持てた。

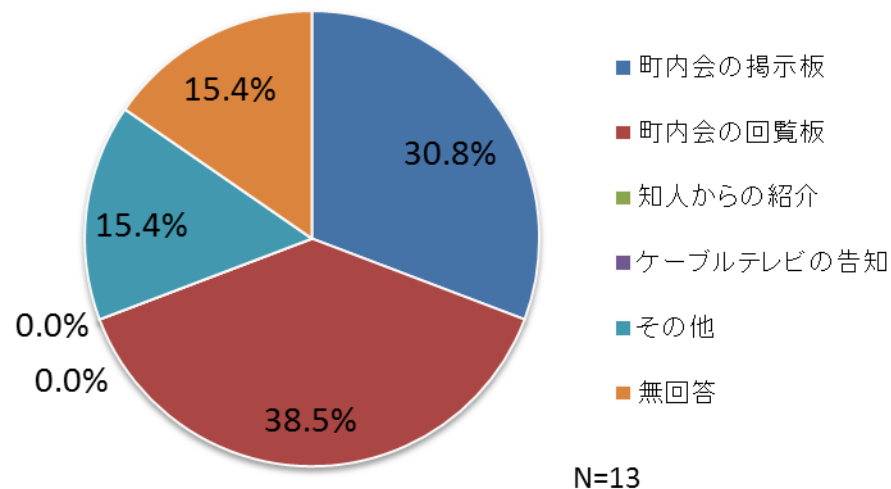
問：講演会に参加して、防災に対する意識は変わりましたか。



問：このような講演会があれば、今後も参加したいとおもいますか。



問： 本日の水防災講演会開催を何で知りましたか。



問： 今後受けてみたい内容やご要望等についての、ご意見・ご感想があればご自由にお書き下さい。

○共助・自助の具体的な方法など。

○現在、住んでいる所が河川に近いもので1回の講演会だけでは充分とは言えないので回数を多めに。



写真

写真

写真

5) 水防災講演会 (2)

第2回水防災講演会

●水害および地域防災に関する講演会

【目 的】 災害時の地域と企業の連携を目的とした講演会を開催する。

1) 日時

平成24年12月15日(土) 14:00～16:00

2) 参加者(総人数: 17名)

- ・舟渡町会員 13名
- ・舟渡地域センター 1名
- ・荒川下流河川事務所 2名
- ・ジェーコム板橋局 1名

3) 内容等

■テーマ「都市防災について」

■講演1 講師 関谷 直也 様

(東洋大学社会学部メディアコミュニケーション学科 准教授)

演題 「大規模水害を考える

～都市型水害の避難と備え～」

講演2 講師 谷原 和憲 様

(日本テレビ放送網株式会社報道局マルチニュース制作部)

演題 「情報で水害の被害を減らす」

参加費無料

水防災講演会

～地域防災を学ぼう～

この水防災講演会は、地域防災力向上に向けた取組の一環として舟渡地区をモデル地区に昨年度から継続的に実施している企画です。今年度は今回の講演会を含め2回の講演会と3回の住民ワークショップを予定しています。今回は、第2回目となります。お申し込みの参加をお待ちしております。

日時 平成24年12月15日(土) 14:00～16:00
会場 舟渡地域センター3階 洋室A (舟渡3丁目)
※舟渡地区住民60名様(先着)事前申し込み不要です

講師 関谷 直也 氏
(東洋大学社会学部メディアコミュニケーション学科 准教授)
日本広報学会理事(研究会運営委員会委員)
日本マスコミュニケーション学会 企画委員会委員
日本災害情報学会企画委員会委員、将来ビジョン検討委員会委員 他

講師 谷原 和憲 氏
(日本テレビ放送網マルチニュース制作部長(兼)ニュースセンター「NNNDキュメント」(部長))
日本災害情報学会 企画委員会 副委員長
東日本大震災ではNNNDキュメント「3・11大震災」シリーズのチーフプロデューサー
2006年 国土交通省「洪水等に関する防災用施設改善検討会」委員 他

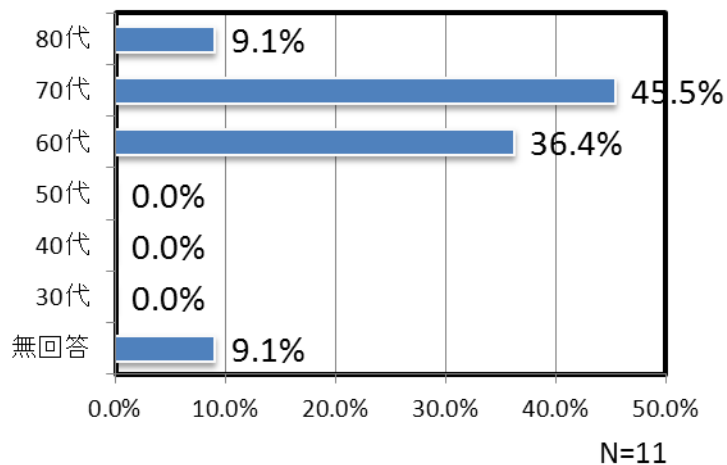
14:00 開会
14:00 第一部
「大規模水害を考える～都市型水害の避難と備え～」
講師：関谷 直也
14:50 休憩(10分)
15:00 第二部
「いざという時に出来ること～水害被災地の取材から～」
講師：谷原 和憲
15:50 質疑応答(10分)
16:00 閉会

主催：国土交通省 荒川下流河川事務所
お問い合わせ：NPO法人環境防災総合政策研究機構
東京都新宿区若葉1-22ローヤル岩城505号
Tel: 03-3359-7971 Fax: 03-3359-7987

写真

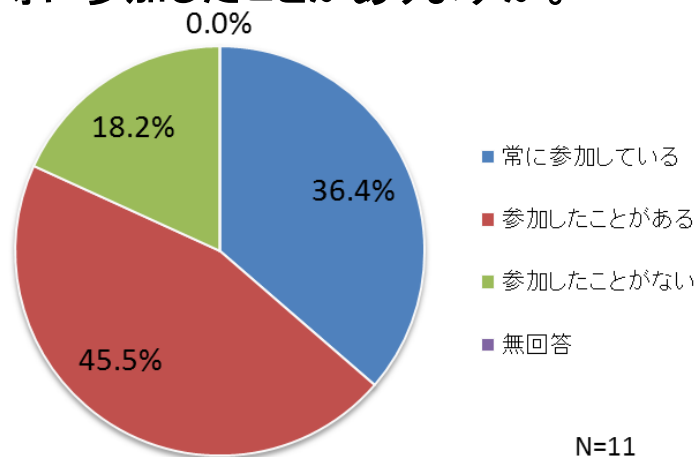
アンケート結果 : 講演会終了後実施

アンケート調査回答者 : 11名 (内訳: 舟渡町会員: 10名、町会員以外: 1名)

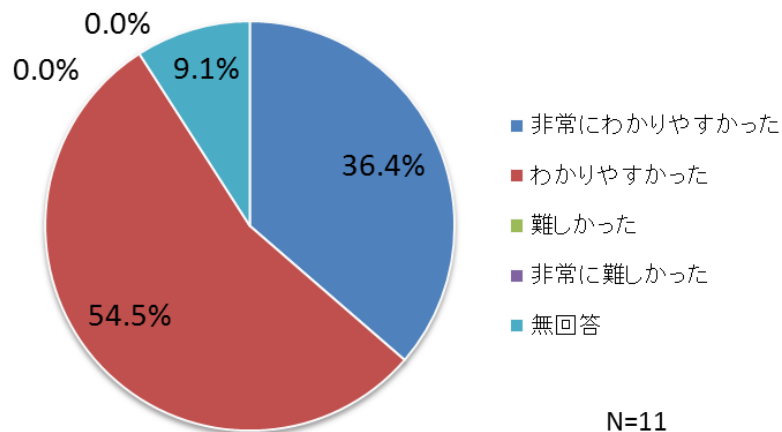


アンケート回答者の年齢構成

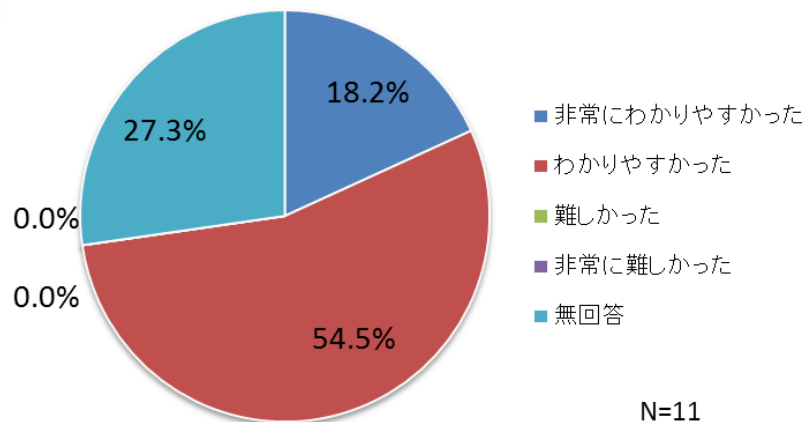
問 : 板橋区などが行っている、防災訓練や研修会等に参加したことがありますか。



問 : 講演会の内容について、それぞれ難しい、わかりやすい等についてお聞きします。

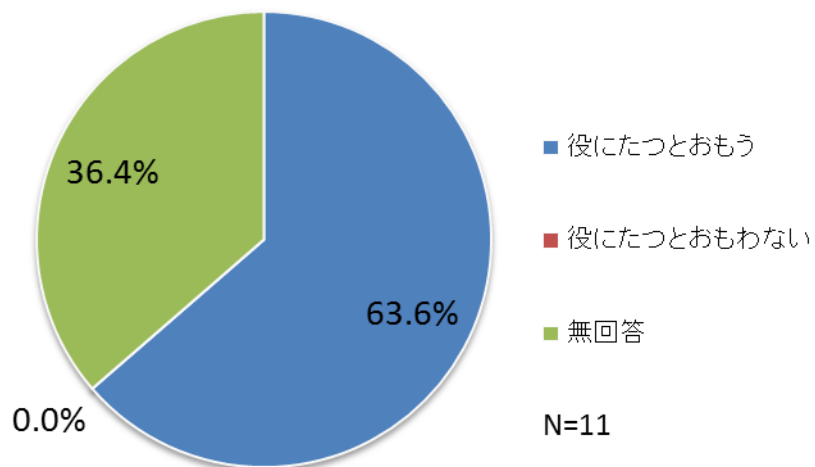


「大規模水害を考える」 関谷講師

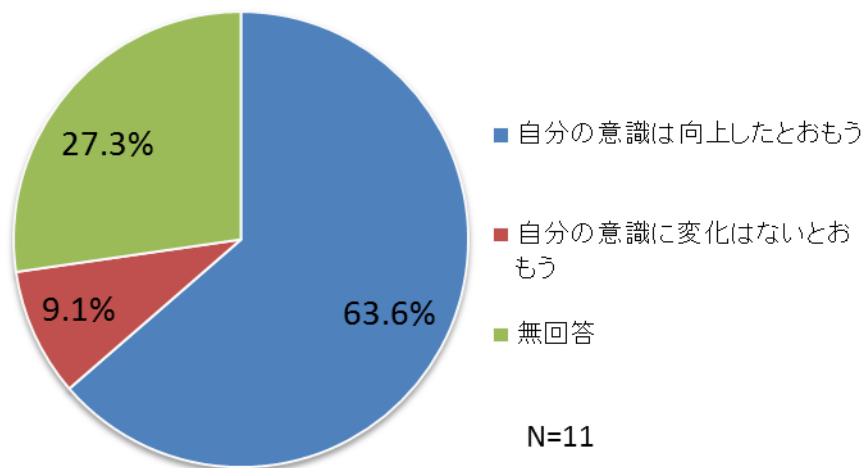


「いざという時に出来ること」 谷原講師

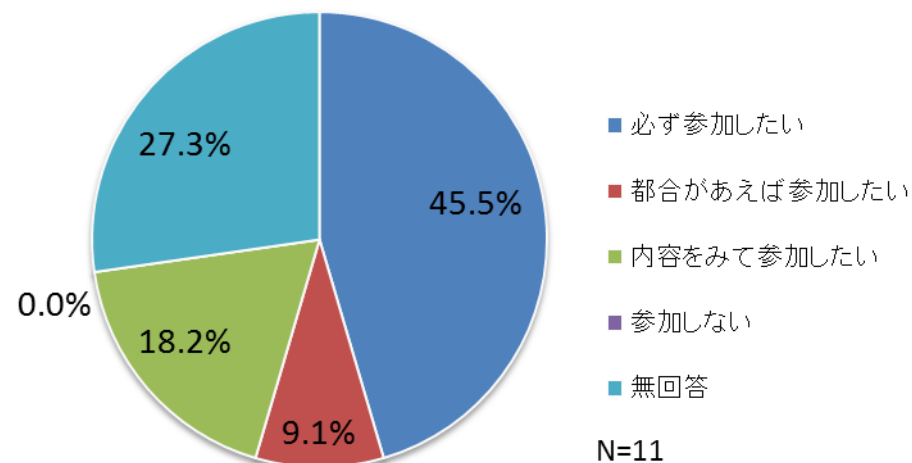
問： 本日の講演会が、今後の災害時などに役に立つとおもいますか。



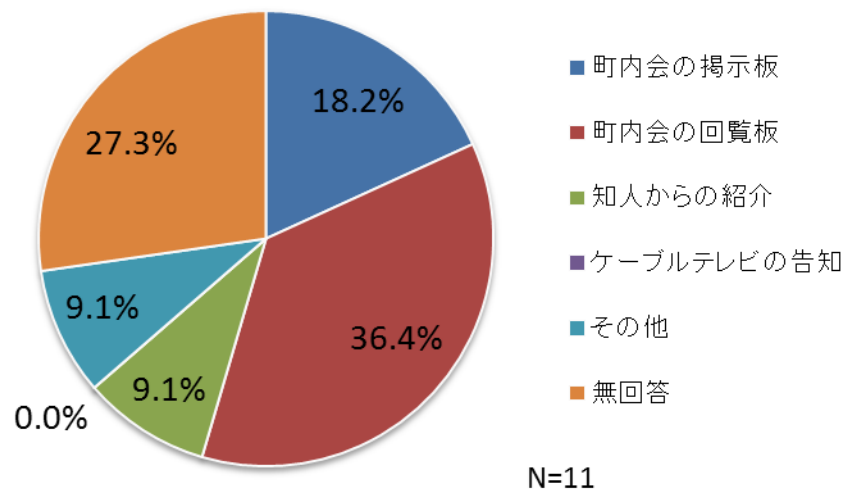
問： 講演会に参加して、防災に対する意識は変わりましたか。



問： このような講演会があれば、今後も参加したいとおもいますか。



問： 本日の水防災講演会開催を何で知りましたか。



写真

写真

写真

6) 住民ワークショップ(1)

第1回 舟渡地区住民ワークショップ～概要～

日時:平成24年12月8日(土)13:30～15:50

会場:舟渡地域センター 3階 洋室

【プログラム】

【第1部】出前講座

<ビデオ観賞> ◆「荒川氾濫」DVD(荒川下流河川事務所提供)

<東京管区気象台> ◆防災気象情報について

【第2部】防災ワークショップ(1)

<荒川洪水シナリオ> ◆荒川で想定される洪水シナリオの説明

【第3部】防災ワークショップ(2)

<地域の特徴及び現状と課題についての話し合い>

◆旧版地図を用いた地域の変遷確認

◆地図を用いた避難場所、避難経路等の確認

◆水害時の対応に関する現状把握と課題抽出

参加者: 28人(内訳は下表参照)

	A 班	B 班	C 班	合 計
住 民	3	5	5	13
企 業	6	1	4	11
マンション	2	1	1	4
合 計	11	7	10	28

写真



写真

第1回 住民ワークショップ結果

検討項目	現状と課題
避難のタイミング	・安全に逃げることのできる限界時間がわからない ・防災無線が聞こえにくい ・住民周知のシステムができていない ・中央バスが災害時要援護者を運んでくれる可能性がある ・緊急時の避難場所としてフェスタ駐車場とケアポートの解放の可能性がある ・逃げ遅れた場合の対応がわからない
避難場所	・指定避難場所(志村小学校)は遠い ・指定避難所は収容人数に限りがある ・駅や線路に避難できないか ・高層ビルでの避難者受け入れは難しい
避難経路	・指定避難所までの避難路が浸水している可能性がある
災害時要援護者対応	・災害時要援護者に関する住民情報がない ・災害時要援護者を高い所に避難させる困難である
荒川はん濫時の状況	・はん濫時に電気は全く使えなくなる
その他	・地区としては、荒川より新河岸川のはん濫の方が心配である ・地域コミュニケーションが構築できていないので、対応策がない ・災害協定の検討が必要である

6) 住民ワークショップ (2)

第2回 舟渡地区住民ワークショップ～概要～

日時: 平成25年1月19日(土)13:30～15:20

会場: 会場: 舟渡ホール レクリエーションルーム

【プログラム】

【第1部】 前回(第1回住民ワークショップ)のおさらい

- (1)「荒川」と「新河岸川」の洪水となる気象状況の違い
- (2)防災情報、避難情報について

①河川水位情報、②洪水予報、③避難情報

- (3)防災情報、避難情報の入手方法について
- (4)前回の住民ワークショップ結果の報告

【第2部】 防災ワークショップ

- (1)前回意見の再確認
- (2)前回出された課題から見える問題点の抽出とその対応
 - ・荒川洪水時における問題点の抽出

参加者: 30人(内訳は下表参照)

	A班	B班	C班	合 計
住 民	6	11	4	21
企 業	3	－	4	7
マンション	－	2	－	2
合 計	9	7	8	28

写真

写真

写真

第2回 住民ワークショップ結果（1）

検討項目	課題と問題点
避難のタイミング	■<u>避難のタイミングがわからない</u> ①逃げるためには意志決定が必要であり、意志決定の材料として情報が必要となるが、テレビなどでは詳細な情報を伝えないことも想定される。 ②区からの情報は板橋区全体に対する情報であるため、避難のタイミングをはかる情報としては使いにくい。 ③何の情報をもとに意志決定をすべきかがはっきりしていない。また、災害時にどの情報ツールが使えるのかという点についても吟味が必要である。 ■<u>防災情報伝達手法の充実が必要である</u> ①災害時に機能し信用できる情報ツールはラジオと防災行政無線に限定される可能性がある。 ②関連する行政機関が広報車などで地域に対する情報伝達をしてくれると助かる。 ③情報伝達手段の整備を改めて考えるべきである。 ④区役所がダム放流のようなサイレンによる情報伝達も考えるべきである。また、サイレンを用いた訓練も併せて実施すべきである。 ■<u>災害時要援護者を指定避難所に避難させることができない</u> ①ケアポートは、5階建である。3階以上には高齢者や要介護者を入居させているので、基本的には避難させない方向である。

第2回 住民ワークショップ結果（2）

検討項目	課題と問題点
避難場所	■指定避難所の立地とスペースに課題がある ①指定避難所である志村小学校は、地域の住民にとって馴染みが薄い小学校であり、地域にとって馴染みのある避難場所を確保できた方がよい。 ②指定避難所である志村小学校は、距離が遠く、舟渡地区住民全員が避難できるスペースがない。 ③避難所までに距離があるため、元気な方でも高齢者には厳しい距離である。 ④志村小学校には、舟渡地区の住民が避難するだけでなく、坂下の住民も避難する為、避難所がいっぱいになり避難者が収容できない可能性もある。 ■近場のマンション等が使用できない ①最寄りの高い場所へ避難するのが現実的な対応の1つではあるが、防犯等の理由からマンション等では門や扉を閉鎖してしまい、逃げ込めなくなる可能性があることが問題点である。 ②マンション等の高層階への緊急的な避難を実現するためには、行政（区、都、国など）による防災協定などが必要である。 ⇒調整が必要とは思うが、候補としては舟渡一丁目アパート、浮間舟渡病院、浮間舟渡園、ロマンヒルズ、建設中の志村警察署が考えられる。 ③病院や老人福祉施設については、受け入れることが難しい可能性がある。（病院側としては逃げ込んできた方は受け入れることになると考えられる。） ④高い建物は民間のマンションが多く、オートロックになっているため、入ることができない。また、公共の建物がほとんどないため、企業にお願いするしかない。企業であれば避難所として利用させてもらえる可能性がある。 ⑤近くの高層階であるフェスタさんの駐車場や中央バスさんに送迎等の協力をいただければありがたい。

第2回 住民ワークショップ結果（3）

検討項目	課題と問題点
避難経路	■<u>道路渋滞が懸念される</u> ①東日本大震災においても中山道は大渋滞を起こしていたことから、この道路を使った自動車による避難は困難である。 ■<u>指定避難場所までの経路がわからない</u> ①避難所までの標識がない。 ■<u>避難時に浸水している可能性がある</u> ①浸水時の移動手段がない（船を用意）。
災害時要援護者対応	■<u>災害時要援護者の移動は困難である</u> ①医療機関の災害時要援護者を指定避難所となっている小学校などへ移動させることは現実的に不可能である。 ②災害時要援護者を移動させる手段は人力しかないため、このような方々の避難は近隣の高層階へ移動させることが精一杯である。 ③介護施設でエレベーターが止まった状況下では災害時要援護者の移動は厳しい状況になると考えられる。 ④災害時要介護者を早めに避難させるということも考えられるが、それで氾濫が起きず、病状が悪化した場合には責任問題が発生する恐れがある。 ■<u>災害時要援護者のための避難所が必要ではないか</u> ①舟渡病院を災害時要援護者のための避難所として確保すべきと考えるが、病院側の受け入れ体制ができているかが問題である。 ■<u>災害時要援護者を把握できていない</u> ①町会では、災害時要援護者を把握しているが、住民は把握できていない。

第2回 住民ワークショップ結果（4）

検討項目	課題と問題点
その他	■災害が夜間に発生した場合の対応が課題である ①ケアポートでは、板橋区との協定により、災害時に受け入れる体制となっているが、許容範囲を超えて人が押し寄せる可能性が懸念される。また、夜間等職員が少ない時の災害では、職員が対応できない心配もある。 ■停電への対応が課題である ①この地区はマンション世帯も多いので、水道、ガス、電気、、セキュリティ、自動ドア等の電気制御系が使用できず、避難所に行く人もいるのではないかと。 ■緊急時の避難者を受け入れる側とのルールがない ①避難に関する防災協定を結んだ際に、区などの助成によって備蓄を積み増しできる方策などが必要である。 ②マンション等の高層階での避難受入をする場合には、居住者の権利などにも関連することであるため、事前のルール整備などが必要である。 ③事業者さんが災害時に協力してくれるとのことなので、事業者さんとの災害時のルールを早期に作る必要がある。 ④避難の協力をするのは良いが、携帯等が錯綜して使えない場合、町内会との連絡が取れない場合がある。会社の中では、無線機を使用しているため問題ないが、事業者と町会の連絡方法を構築しておく必要がある。

6) 住民ワークショップ (3)

第3回 舟渡地区住民ワークショップ～概要～

日時:平成25年2月2日(土)13:30～15:10

会場:舟渡ホール レクリエーションルーム

【プログラム】

【第1部】前回(第2回住民ワークショップ)のおさらい

■前回住民ワークショップ 結果報告

【第2部】防災ワークショップ

■前回意見の再確認

■前回ワークショップで確認した役割の具体的な対応の検討
避難のタイミング、避難場所、避難経路、災害時要援護者

■地域の防災マップ(素案)づくり

・地域住民が考える避難場所を地図に反映

写真

写真

写真

参加者: 36人(内訳は下表参照)

	A班	B班	C班	合 計
住 民	3	16	8	27
企 業	3	－	4	7
マンション	－	2	－	2
合 計	6	18	12	36

第3回 住民ワークショップ結果（1）

検討項目	対応方法
避難のタイミング	■防災情報の収集 ①防災行政無線の放送による板橋区からの「避難勧告等」を避難のタイミングとしたいが、放送が聞こえない（聞こえにくい）ため、他の方法を考える必要がある。 ②舟渡町会では、板橋区職員参集安否確認システム（板橋区）からの一報で防災組織開設となり、町会長から連絡網に沿って全町会員に連絡がいく仕組みになっている。（町会加入者は、連絡網により情報が入る。ただし、町会加入率は、50%程度であり、約半数の世帯と企業には、情報がはいらない。） ③スマートホン・携帯電話・インターネットを使用した情報収集が有効である。特に、板橋区の防災メール、荒川下流河川事務所のARAメールが有効と考える。（メールの受信方法、インターネット等のアクセス先及び使用方法がわからない住民が多い。） ④岩淵水門の水位と雨量を見て危険を感じたら行動する。 ⑤病院と特養ホームでは対応に半日以上が必要であることから水位情報の予測を見て、はん濫警戒水位に達する半日前から行動を開始する。 ⑥埼京線や武蔵野線の運行状況も目安として行動。各線が運行停止した場合には注意する。 ⑦ヘリコプター、青パト（防犯に使用している）、広報車による提供をお願いしたい。 ⑧各戸型の防災無線の設置は、出来ないか。 ⑨ラジオ等のローカル放送（荒川沿いの住民を対象）は出来ないか。

第3回 住民ワークショップ結果（2）

検討項目	対応方法
避難場所	■高所(垂直)避難の可能性 ①〇〇マンション(WS参加)では、3階までの20世帯を優先して上階に避難させる予定であり、マンション以外の人は、ほとんど避難できないと考える。 ②洪水時には停電になるため、エレベーターが使用できなくなるため、階段を上り下りできる体力のある人が対象となる。 ③舟渡2丁目では、屋上が使えるマンションは1棟だけである。 ④都営住宅の屋上を使用できるようにする。(板橋区が協定を結ぶ) ⑤近隣の高層階企業に頼む。
避難経路	①土手(堤防)下の道路を使用しないように避難する。 ②避難路の明確化と避難空間の確認のため、防災マップを作成する必要がある。 ③防災訓練を行い、避難経路等を確認する必要がある。 ④地域外へ出る場合には中山道を使うことになるが、事態が進行していると渋滞が懸念される。 ⑤基本は地域内の避難を想定し、避難経路は大きな道路を使用する。
災害時要援護者対応	①地域内に居住する災害時要援護者の把握はできていない。 ②災害時要援護者の名簿を作成する必要がある。 ③板橋区へ申請している人は氏名がわかるので、民生委員と相談する。 ④申請者以外は、今後の課題であり、民生委員や防災組織と相談する必要がある。 ⑤一時避難所(集合場所)を検討し、設置する必要がある。 ⑥中央バスで避難時の移動を手伝ってもらう。 ⑦病院等の災害時要援護者施設では対応に時間を要するため、半日前から行動を開始する必要がある。空振りも多くなることが考えられることから、空振り時に入院患者や入居者の負担が大きくなりえない工夫が必要である。

第3回 住民ワークショップ結果（3）

検討項目	対応方法
その他	■災害時の備蓄 ①食糧と水の備蓄のために、備蓄倉庫を設置する必要がある。 ②都営住宅の高層階の1部屋を物資の保管にできれば良いと思う。 ③住民や企業等で備蓄をするにあたり、消費期限もある為、毎年、地域における訓練等を実施し有効に使っていくとよい。 （貸倉庫や町会での備蓄→入れ替え→訓練で実際に使用→新しい備蓄） ■近隣企業との連携 ①企業とのルール作り（避難所の提供、開設及び使用ルール、車の対応等）が必要である。 ②舟渡地区は、企業が多いため、昼間人口（企業人口）の調査を行うべきである。 ■災害時の対応 ①避難時の排泄処理について検討する必要がある。 ②避難、救助等のため、船（ボート）を確保してはどうか。 ③近隣住民による車移動の問題（渋滞等）が心配である。 ④舟渡3丁目は、印刷会社が多いので洪水の場合、化学薬品の汚染が心配である。 （有機物質ではないので大丈夫との意見もあり） ⑤洪水による被害は、頻度は少ないが発生すれば甚大な被害が予想されるため、基金の設置を検討する必要がある。 ⑥自分たちで考えるという意味では、このワークショップは良いかもしれないが、間違った避難方法で議論に熱が帯びる場合もある。実際の災害時にそのような行動をとる危険性がある。専門家による講演もある方が良いと思う。

第3回 住民ワークショップ結果（4）

1) 避難場所候補リストの作成

第3回住民ワークショップにおいて、WS参加者により提案された荒川はん濫時の避難先の候補を下表にとりまとめた。

表 舟渡地区 洪水時避難場所リスト

班名	避難の時期	避難場所候補リスト
A班 (1丁目)	①早い段階に避難する場所	・坂上方面 ・志村小学校(区の指定避難所) ※上記への移動には時間がかかるほか、早い段階での避難判断が難しいため、現実的には地域内での緊急避難と考えられる。
	②緊急時に避難する場所	・JR浮間舟渡駅 ・荒川の堤防天端より高い地域内の様々な建物
B班 (2丁目)	①早い段階に避難する場所	○舟渡町から出る。 ・北区の赤羽台にある東京北社会保険病院 (高台にあり、敷地が広い)、(志村小学校より近い)、(板橋区の人間が利用できるかわからない)
	②緊急時に避難する場所	・第一硝子(4階建、屋上有)、・第一興業倉庫ビル(屋上有)、 ・平河工業、・三菱マテリアル、・印刷会社、・JR浮間舟渡駅、 ・職業能力開発センター板橋校、・志村警察(8階建改築中)
C班 (3丁目)	①早い段階に避難する場所	・志村小学校(区の指定避難所)
	②緊急時に避難する場所	・舟渡小学校、・日本金属、・日経印刷、・東京リスマチック、 ・フェスタ、・中央バス、・リサイクルセンター、・地区センター

第3回 住民ワークショップ結果（5）

2) 早い段階に避難する場所候補マップの作成

舟渡地区避難所候補リストを基に作成した荒川はん濫時の避難所候補マップ(広域)を下図に示す。



図 舟渡地区 洪水時避難所候補マップ(広域)

第3回 住民ワークショップ結果（6）

3) 緊急時に避難する場所候補マップの作成

舟渡地区避難所候補リストを基に作成した荒川はん濫時の避難所候補マップ(緊急時)を下図に示す。

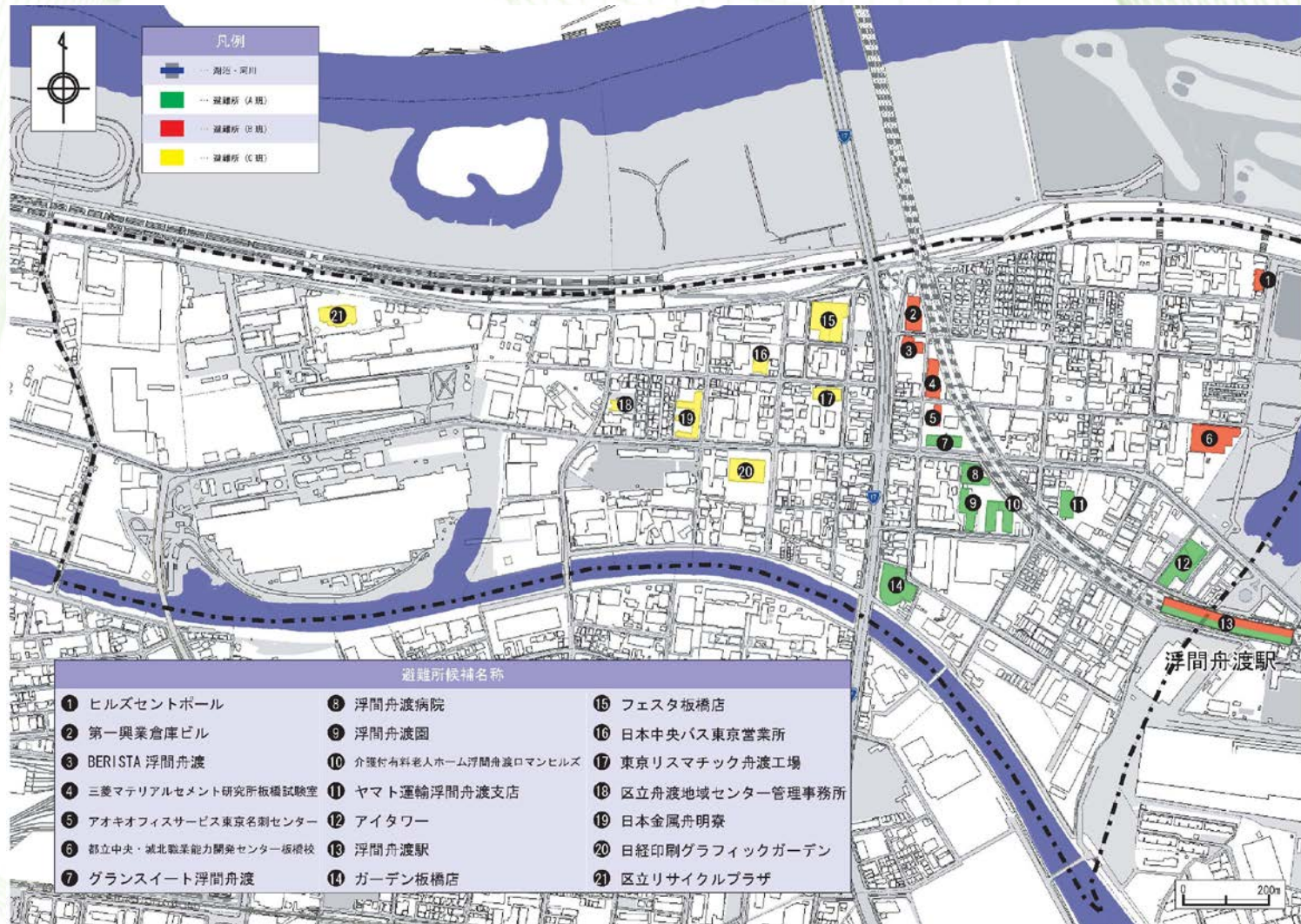


図 舟渡地区 洪水時避難所候補マップ(緊急時)

参考：舟渡地区の高層建物

舟渡地区(舟渡1～4丁目)に立地する高層建物(概ね4階建て以上)エリアを参考として下図に示す。

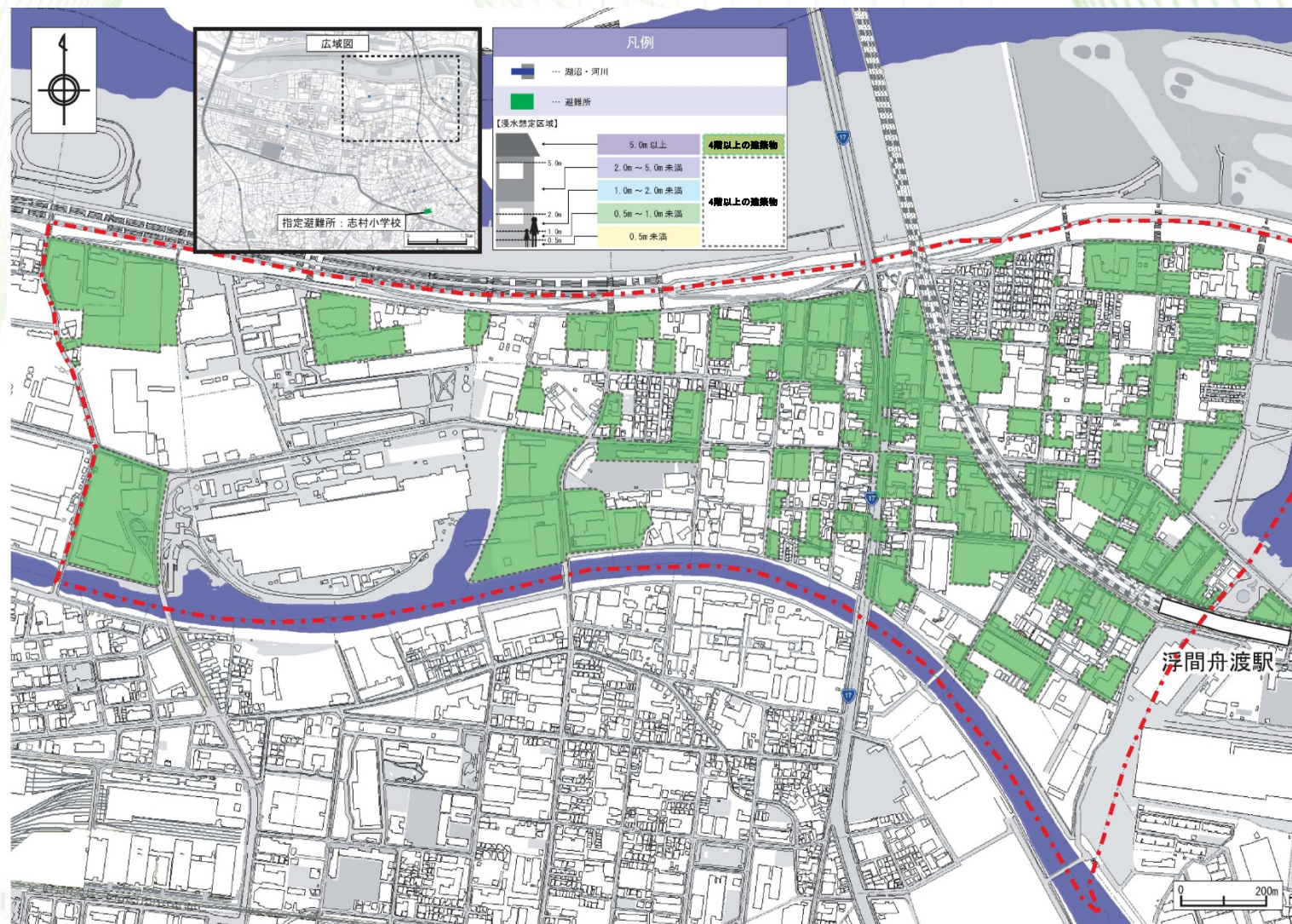


図 舟渡地区の高層建物配置エリアマップ(4階建て以上)

6) 住民ワークショップ（4）

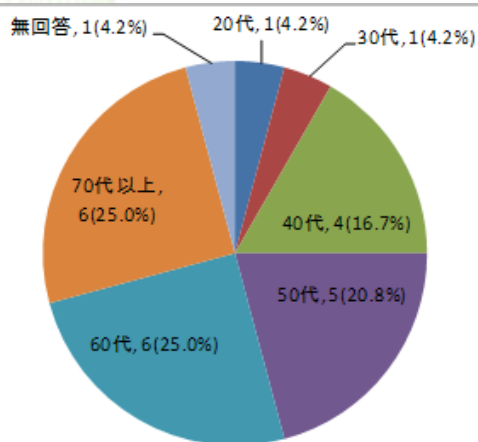
舟渡地区住民ワークショップ アンケート調査結果

ワークショップ参加者数とアンケート回答者数を下表に示す。

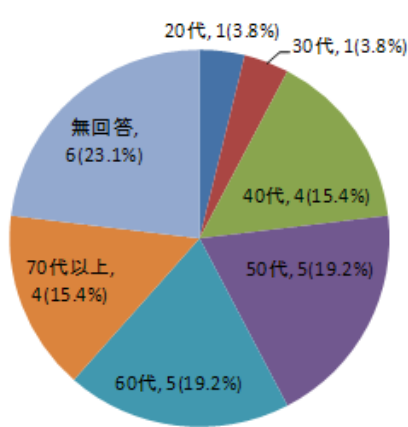
	参加者数 (人)	アンケート回答者 数 (人)	回答率 (%)
第1回	28	26	93
第2回	30	24	80
第3回	36	31	86

住民ワークショップ参加者の年齢構成

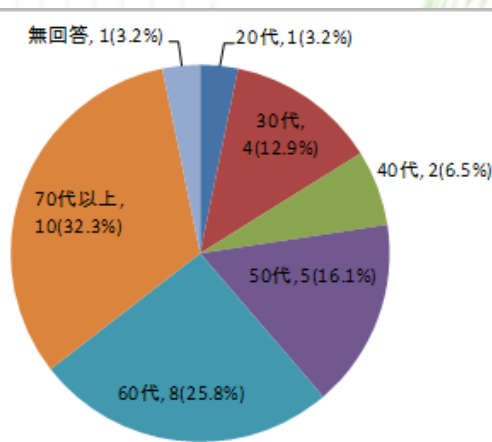
第1回



第2回



第3回

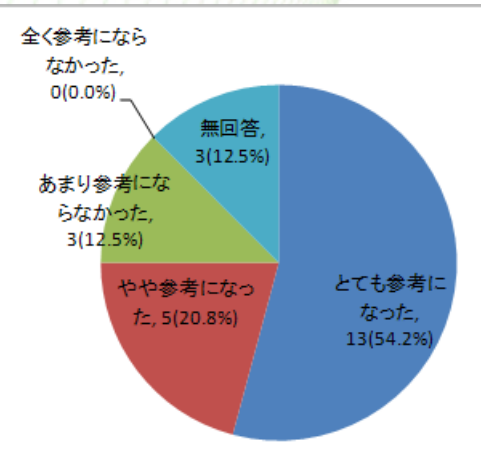


凡 例

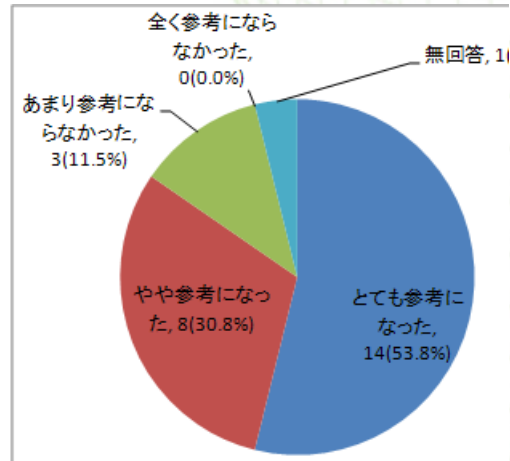


Q. 本日の住民ワークショップは「避難時の危険個所」や「避難時のルール」を考える上で参考になりましたか。

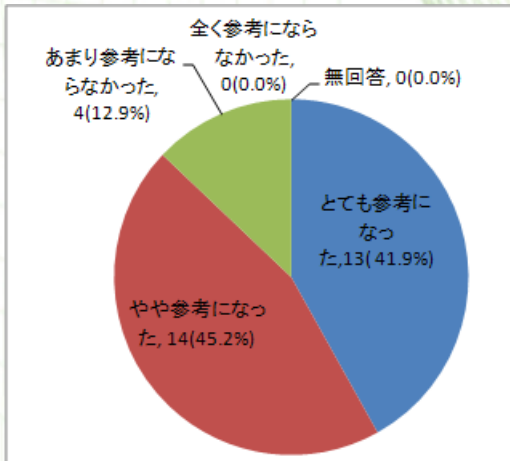
第1回



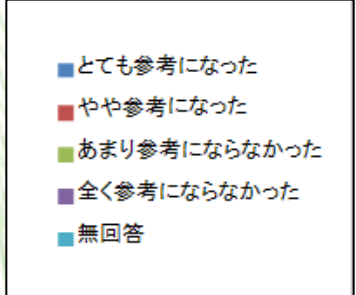
第2回



第3回

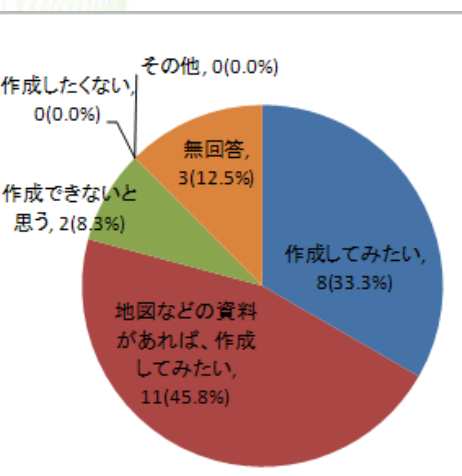


凡 例

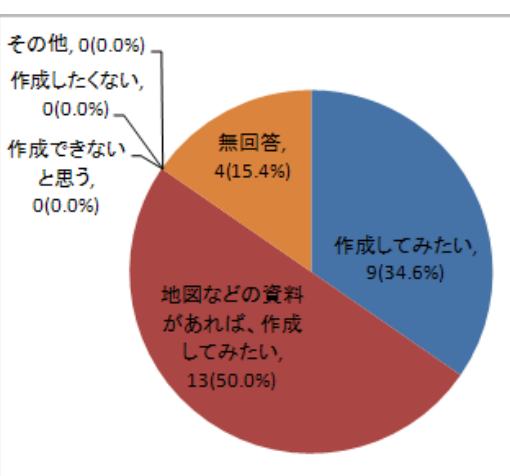


Q. 今回ワークショップを参考に、災害時の備えとして、地域の皆さんで防災マップを作成してみたいと思いますか。

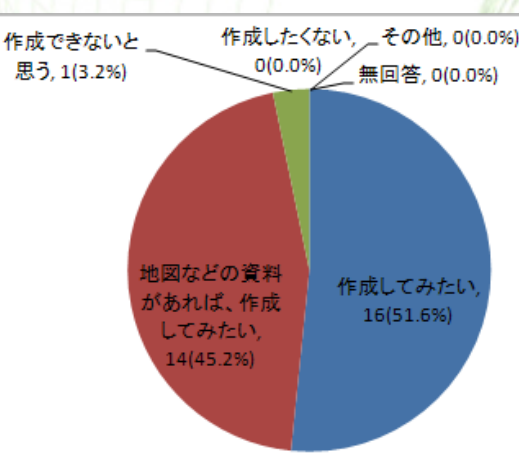
第1回



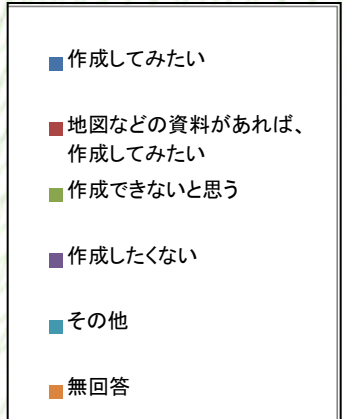
第2回



第3回

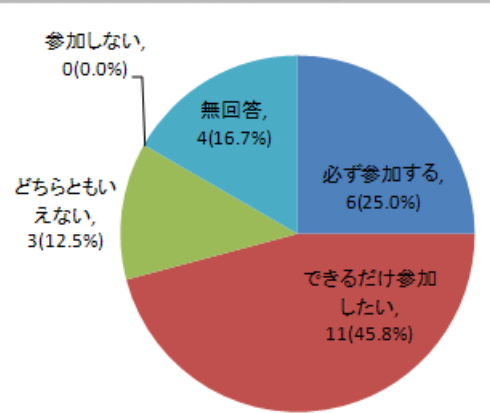


凡 例

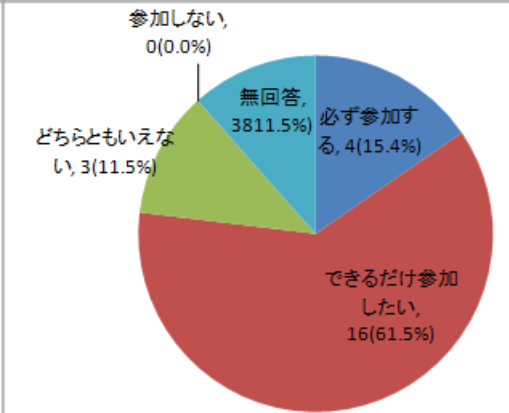


Q. このような住民ワークショップがあれば、今後も参加したいと思いますか。

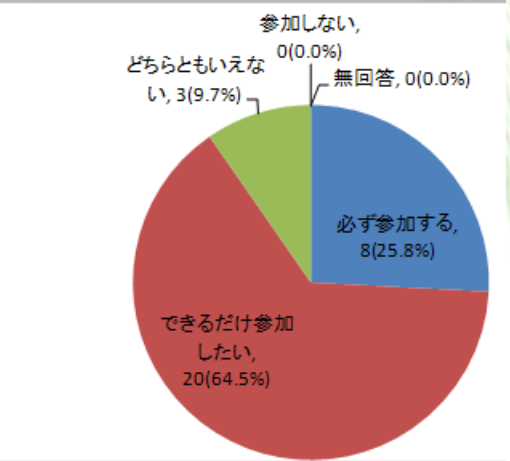
第1回



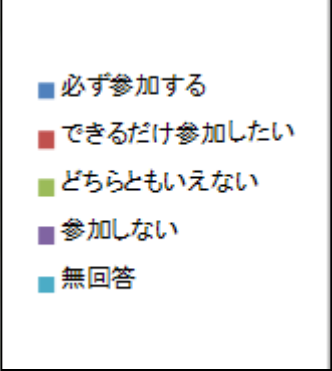
第2回



第3回

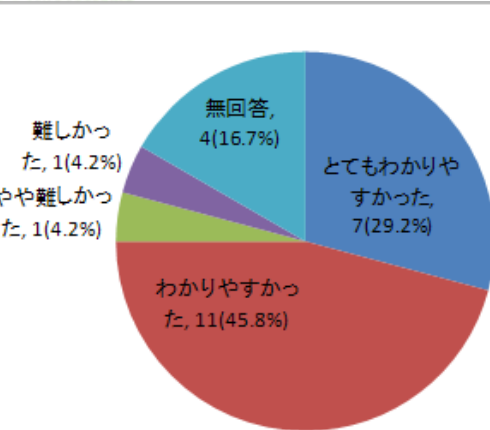


凡 例

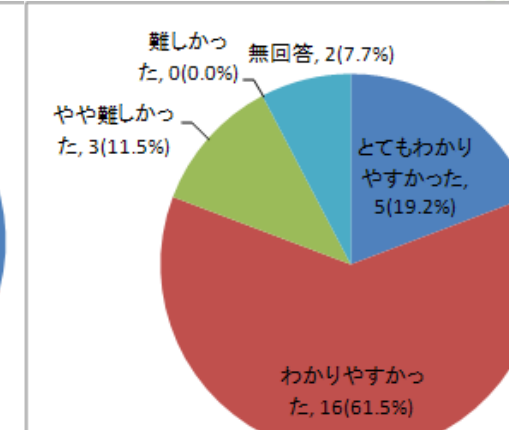


Q. 本日の住民ワークショップの内容はわかりやすかったですか。

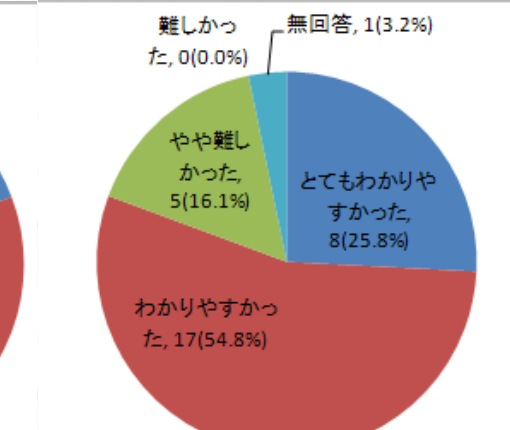
第1回



第2回



第3回



凡 例

